

美術科部会

研究主題 豊かな感性をもち、意欲的に表現しようとする生徒の育成

1 主題について

今年度は、特に鑑賞活動に研究の視点を当て、美術作品などのよさや美しさを感じ取り、自分なりの意味や価値をつくり出したり、自分の見方や感じ方を整理して他者との交流の中で見方や感じ方を広げることができるような授業づくりを目指して、本テーマを設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成
9月20日	美術科授業研究会（田代中学校）
10月26日	第2回総合研究会（田代中学校） テーマ研究・各校の実践紹介

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成24年9月20日（木）
- ・会 場 田代中学校
- ・題材名 2年「探ろう！余白の美」
- ・授業者 成田 麻衣

① 授業者から

- ・グループ内では同一の絵に興味をもつとは限らないので、見たい絵が同じ者同士でグループを作った。
- ・表現活動をしていると「ここに何を描けばよいか」と質問してくる生徒がいる。余白で表現することもできるということを伝えなかった。
- ・鑑賞する作品の選択→命あるものという視点で選んだが6枚の提示した作品の選択はよかったのだろうか。

② 協議

- ・選んだ作品を、表情で様子を読み取ろうとしている人もいれば、色から読み取ろうとしている人もいた。
- ・上村松園「待月（まちづき）」の鑑賞は、様々な視点からの発言があり深まった。
- ・授業後半での『『余白の美』を個で探ろう』という発問が、ぼんやりしていた。学習課題「余白からはどんなことが感じ取れるだろうか？」という発問でよかったのではないか。
- ・鑑賞での発言には、自分の生活経験などが感想（意見）に表れてくることが多い。
- ・日本画の本質的なよさとは、見る人が想像力を働かせることができる点。

③ 指導助言（嘉藤 貴子 指導主事）

- ・子どもの発言の取り上げ方が上手で、進め方もテンポよく、内容の濃いものとなった。1時間では無理と思うような内容をよく行った。
- ・ねらいをどこにもっていくのが大事である。前半の松園の絵の鑑賞で、色、形、描き方（表現の繊細さ）など美術的要素にふれ、後半の鑑賞では「余白」に特化した進め方をするとよかったと思う。
- ・余白がない絵との比較で余白の効果を確かめられた。日本の絵と西洋の絵を比較し、表現の違いに気付くことができた。
- ・自分で感じ取る、とらえることが大切である。
- ・美術の時間の話し合いは、収束させない。どんな小さな意見も取りこぼさないようにする。



【上村松園「待月（まちづき）」から想像を膨らませる生徒たち】

- ・構図としての余白の考え方は、作者によって余白の意図が違う。想像させるためであったり、描きたい物を目立たせるためであったりする。
- ・日本文化と西洋の文化の違いは、西洋絵画は、場面、時間、一瞬を切り取っている。日本絵画は一瞬ではなく時間的、空間的に広がりがある。
- ・生徒たちは、自分の生活経験と照らし合わせて、絵の見方が変わっていかればよい。

(2) テーマ研究

・期 日 平成24年10月26日(金) ・会 場 田代中学校

① 系統性を考慮した鑑賞授業

② 日頃の実践題材の紹介

③ 指導助言(嘉藤 貴子 指導主事)

- ・鑑賞活動は、子ども自身がよさや美しさを感じ取り、味わい、自分なりの意味や価値をつくり出す創造活動である。自分の見方や感じ方を整理し、他者との交流の中で見方や感じ方を広げることが必要である。これには言語活動が大きく関わってくる。
- ・造形的なよさや美しさに気付かせるようなコーディネートが必要である。
- ・鑑賞の活動とは、鑑賞の能力を高める活動である。参考作品を見る、材料を見る、など様々であるが、見方や感じ方が変わるような手立てを打つ必要がある。その鑑賞の活動を通してどんな力が付くのかを押さえておかななくてはならない。
- ・「A表現」及び「B鑑賞」の指導については相互の関連を図らなくてはならない。鑑賞の学習の中に表現において発想や構想の場面でイメージを膨らませるような視点や、制作手順をたどりながら表現方法に着目させるような視点を位置付ける。また、中学校3年間の年間指導計画の中でどの時期にどのタイミングで行うのかについて考えてほしい。
- ・3年間の中でどのように系統立てて積み重ねていくのか、それぞれがばらばらになってしまわないように、1時間1時間を大切に扱わなくてはならない。
- ・美術を美術たらしめているのは共通事項そのものである。これがなければ美術の授業ではない。
- ・美術館や博物館を積極的に活用してほしい。近くに美術館がなければ何ができるか?例えば「学芸員を呼ぶ」「ウェブサイトを活用する」などについても考えていきたい。また、古くからある建築物も、活用できる視点がないかな?と考えてみてほしい。
- ・美術文化についての理解を深め、(1年)美術文化に対する関心を高める。(2・3年)諸外国の美術や文化との相違と共通性に気づき美術文化の継承と創造への関心を高める。
- ・美術文化の伝統的な側面と創造的な側面に視点をあてた授業づくりをする。美術文化への理解は歴史の勉強ではない。名前、時代を学ぶのではなく、[共通事項]である表現の形、色、など美術的な視点で見ていくことである。美術を美術たらしめているのは共通事項そのものである。これがなければ美術の授業ではない。
- ・普段からちょっとしたしかけを学校のあちこちしておく。日常的に「見ることは楽しい」「表現することは楽しい」と思わせる工夫をしてほしい。定期的に作品を入れ替えることなどもその一つとして大事にしてほしい。また、図書室などにある美術の資料をできる限り生徒にふれさせるようにしてほしい。
- ・「この題材で子どもにどんな力が付くのか」ということを常に考えなくてはならない。教科書を教えるのではなく、教科書・資料集を使って、指導要領を教えていくのである。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・他校での鑑賞題材の実践例を知ることができ、今後の実践の参考とすることができた。
- ・鑑賞活動の意義や年間計画での位置付けを確認することができた。

(2) 課題

- ・鑑賞教育は単発で行うのではなく、3年間という期間の中で表現と結びつけた計画を立て、それに沿った実践をしなくてはならない。
- ・今年度は研究授業を総合研と別の日に行ったが、来年度は総合研の日に行うこととした。